

豊かな地域の教育力を様々な教育活動に活かす ネットワークづくりを目指して

—地域教育プラットフォーム構想の実現に向けて—

地域の教育力を学校内外の教育活動に活かすには

- 学校では、子どもたちの「生きる力」をはぐくむ取組の一環として、「総合的な学習の時間」をはじめ、職場体験等のキャリア教育、奉仕（ボランティア）活動などの取り組みが進められています。これらの教育活動を充実するため、学校現場では外部の専門的な人材など、地域社会の教育力を積極的に活用したいと思っています。
- 一方、都内にある企業、大学、芸術・スポーツ団体、NPOなどでも、それぞれが持っている専門的技術や知識等を、学校内外の教育活動に積極的に活かしたいという社会貢献の気運が高まっています。

しかし、相互の思いにもかかわらず、これまで学校内外の教育活動に外部の教育力を効果的に結びつける仕組みやコーディネートを行う体制が十分でなかったこともあり、協働して教育活動を行う取り組みは十分ではありませんでした。

「地域教育プラットフォーム構想」に基づくネットワークづくりへの提言

第5期東京都生涯学習審議会答申

【答申の概要】

- 都教育委員会が行う教育施策の方向は学校教育と社会教育の連携・融合の視点に立ち、学校・家庭・地域が協働する仕組みづくりを目指す。
- 今後の社会教育施策の重点は、「子ども・若者」に焦点化し、「家庭教育支援」、「学校教育支援」、「学校外施策」を3方向から取り組む仕組みとして「地域教育プラットフォーム構想」を提案

地域教育プラットフォーム構想

○地域教育プラットフォーム モデル事業の実施

・区市町村において、学校・家庭・地域の協働を図って、外部の教育資源を活用した教育活動の実施

（地域レベルでの仕組みづくり）

連携

○地域教育推進ネットワーク 東京都協議会の設置

・企業・大学・NPO等が有する教育資源を子どもの教育活動に効果的に導入し、モデル地区等の学校内外の教育活動の活性化のための支援を実施

（都の広域レベルでの仕組みづくり）

第5期東京都生涯学習審議会答申（平成17年1月30日）「子ども・若者の『次代を担う力』を育むための教育施策のあり方について」～社会教育行政の再構築に向けて～